

中田かわら版 11月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

スポーツの街づくりで連携強化

中央公園野球場で中学校野球部が初めての練習！

分野連携型文化構想プロジェクト・リーダー 鈴木賀津彦

◆「本物の球場で練習できて感激！」

中田中学校の野球部の生徒たちが 9 月、中田中央公園の野球場を使って初めて練習を行いました。普段は中学校のグラウンドで他のクラブ活動と一緒に場所を譲り合いながら練習していますが、同野球場に出かけて広々とした内外野で思いっきり練習に汗を流した生徒たちは、本物の球場で練習できるなんて、こんなに嬉しいことはない、と喜んだそうです。そして、この球場で他校などとの試合もできたら素晴らしい、と意欲的に思いを膨らませているようです。

きっかけは学校と地域の連携のため、地域でできるアイデアを出した際に、生徒たちに「地域の資源」をもっと気軽に使ってもらい、生徒たちの活動をさらに活発にしていくために役立つ地域からの応援をしていこうという考えで一致。まずは、やれることから進めようと、平日は利用が少ない野球場を活用するアイデアが出て「地域資源活用」の第 1 弾として実現しました。

中学校の部活動での利用ということで、公園の管理者側も協力してくれ、通常の利用料金(2 時間 2,600 円)を減免し、「半額」で利用できました。さっそく 11 月にも第 2 回の練習日の予定を入れ、生徒たちもはりきっているそうです。さらに継続的な利用のためには新年度からは学校の部活動が「もっと気軽に」利用できる施策を打ち出せないかと、検討も始まっています。

◆地元の要望で実現した「総合スポーツ施設」、近くサッカー場も整備へ



【中田中央公園では東中田小学校とのコラボ事業も】

振り返れば、中田中央公園の整備事業が構想された 1995(平成 7)年には、小中学校の PTA 会長らが中心になって「横浜における中田を考える会」(上原敏博代表世話人)ができ、「他の地域の方々にも来てもらえ、泉区民が誇りを持てる観客席のある総合スタジアムの施設を誘致」に動き出しました。「スポーツの街づくり」を掲げて「公園は総合スポーツ施設に」という陳情を横浜市にしています。この要望が実り、1996(平成 8)年 3 月に横浜市は「身近に運動ができる施設の整備を求める市民ニーズが高いことなどを踏まえ、子どもからお年寄りまで、日常生活の中で気軽にスポーツのできる公園」として整備計画を打ち出したのでした。公園ではサッカー場の整備も近く進められます。計画当時の「スポーツの街づくり」への思いを更に深化させて、子どもたちのスポーツ活動を地域で支える取り組みを強化するなど、中央公園の利活用で多様な地域の連携を進めていければと期待しています。

◆地域の繋がりを広げていく「分野連携型プロジェクト」始動

中田経営委員会では本年度から「分野連携型文化構想プロジェクト」をスタートさせました。地域連携で生徒の野球場利用が実現したように、多様な分野の人々が顔の見える関係になり情報交換を活発にすることで、分野を超えた交流の具体化をみんなで一緒に進めていく取り組みです。



【中央公園の野球場。土日はクラブチームなどの試合で活発に利用されるが...】

■郷土史家・小島貞雄氏の功績<5>

中田が生んだ江戸名力士「戸田川」 宮田貞夫

戸田川（俗名小山権太夫・1735～1795）は中田出身の江戸時代に活躍した力士である。幼少の頃から怪力の持ち主と知られ19歳の時、2代目玉垣の弟子になり立浪を名乗る。宝暦5年（1755年）、戸田川鷲之助（2代目）に改名。同6年小結に昇格、7年の京都番付では関脇の地位でとっている。当時は江戸の他大阪、京都、南部（岩手）など地方にも職業相撲集団があり、中でも大阪とは力士の往来が多く組織的にも充実していた。

明和7年（1792年）3代目雷（いかずち）権太夫を襲名し、会所筆頭（現在の相撲協会理事長に相当？）の要職に就く。この時第11代將軍・徳川家斉（1773～1841）の上覧相撲を実現させるなど相撲の黄金時代を築く。

現役時代は稽古熱心で苦行研鑽し、他力士の養成にも力をつくしている。寛政7年2月、会所筆頭を辞め、その年の9月に他界している。「戸田川」について小島氏は『中和田郷土史』（昭和48年刊）に『戸田川の逸話』を紹介したり、戸田川を称えた「相撲甚句」を作詞するなど実像の研究にも力を入れていた。

- <参考資料> 「中和田郷土史」（昭和48年3月刊）
「いずみ いまむかし」（平成4年10月刊）
「泉区の文化と歴史」（泉区生涯学級・平成4年）
「横浜と相撲」第17号（平成4年・横浜市立図書館刊）



（日本相撲史上巻より）

相撲甚句「強力関取 戸田川権太夫」 平成2年10月 小島貞雄作・伊藤八郎補作

戸田川関を甚句によめばヨ
相模の国は中田村
代官屋敷にそびえ立つ
大杉見つつ人となる
夢は男の花道と
縁があつてか角力入り
阿夫利の山の庇護のもと
朝な夕なの猛稽古
小兵ながらも力もち
上方・京都に江戸相撲
関脇までものし上がり
髻（たぶさ）加えて世をわかす
現役退いたその後は
玉垣・雷部屋を継ぎ
あまたの弟子をば育てあげ
果は会所の筆頭
多くの重責担いつつ
谷風・小野川横綱の
黄金時代を築きあげ
寛政7年秋9月
病に勝てず鬼籍入り
眠るは苔むす中田寺
強力角力開山と
今の世までも名を残す
これぞ中田のヨーホホイハア
出世頭ヨ

※髻（たぶさ）、もどりのこと

編集後記

10月5日、中田小にて連合主催の「なかたフェスティバル」が雨天の中で開催された。体育館での発表部門は会場満席の観客で大賑わいであった。校庭の売店には傘をさしながら買い求める長蛇の列。そして10月13日、同じく連合主催の「スポーツ大会」。この上ない晴天に恵まれ、各町会の競い合いで大いに盛りあがった。中田の町は今も変わらず元気である。 S.松本

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本 正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋 宏之